

2 健全苗(植付用苗)の確保

(1) 植付用苗の調達

- ・ 茎頂培養(バイオ)苗から増殖した苗を使用して種いもを生産する。
- ・ バイオ苗の導入(購入)が困難な場合、「病害が発生していない種いも生産ほ場」由来の“健全種いも”の苗を使う。
- ・ 使用する種いもは、伏せ込む前までに必ず種いも消毒を行い、加えて育苗床の消毒も必ず実施する。

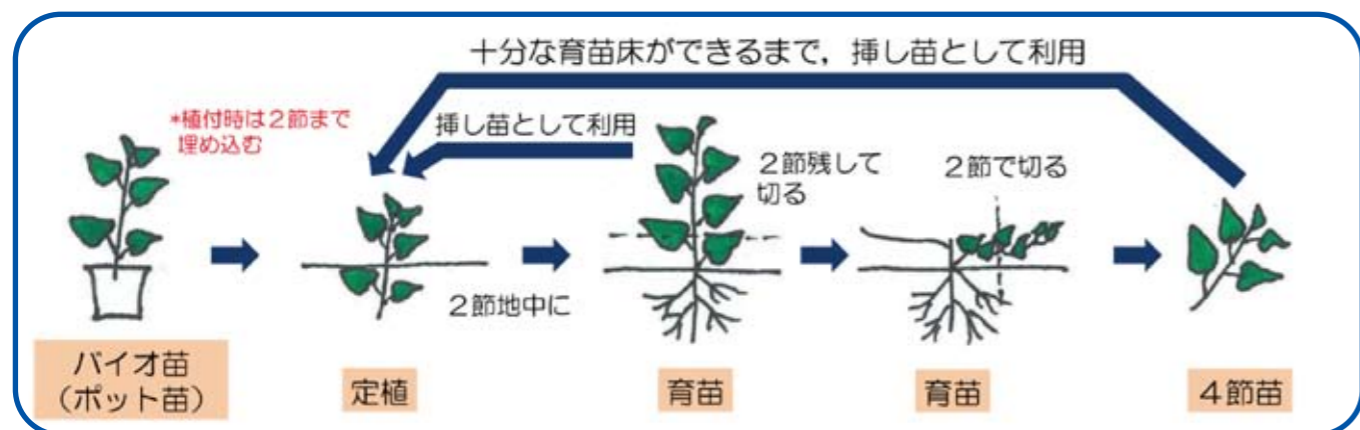


図1：バイオ苗の挿し苗増殖方法

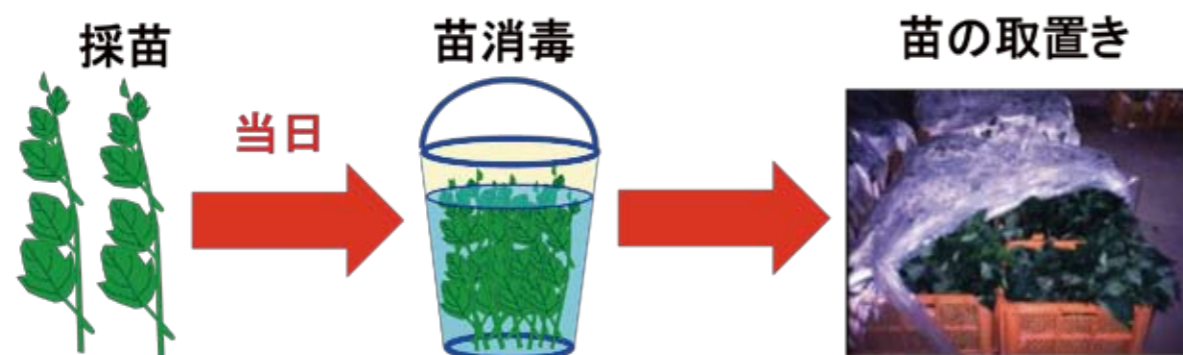
※繰り返しこの作業を行い必要本数を確保する。

(2) 採苗方法

- ・ 採苗は、黒斑病や基腐病からの感染リスクを低下させるために、地際部から5cm(2~3節)以上の位置で行う。
- ・ 採苗に使用するハサミは、定期的にバーナー等で刃先を殺菌・消毒する。

(3) 植付苗の消毒

- ・ 採苗後は苗を速やかに消毒する。苗消毒は消毒液(ベンレート水和剤500倍希釈など)で約30分間、苗基部をしっかりと浸漬する ※図2参照
- ・ 消毒液は、使い回さず、使用日ごとに毎回作成する。



※苗を薬液に30分漬ける

図2：苗の消毒方法

3 「種いも」の発病リスク軽減方法

原則として「種いも」は、病害の発生していない「種いも専用ほ場」から採取する。

- ・ やむを得ず、基腐病の発生ほ場から種いもを採取しなければならない場合は、種いもの株基部に基腐病の病徴(地際の茎の黒変)が出ていない株から(※図3)採取する。



図3：利用株の判断

- ・ 採取した種いもは貯蔵前に下の3つの処理を行うことで、貯蔵中の発病リスクを軽減させることができる。

- ① 流水で水洗・選別 ② なり首と尾部の除去 ③ 種いもの消毒

○健全な種いもを確保する管理方法

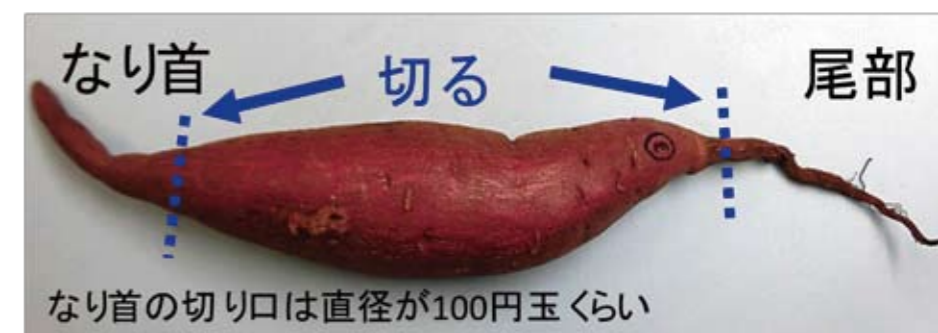
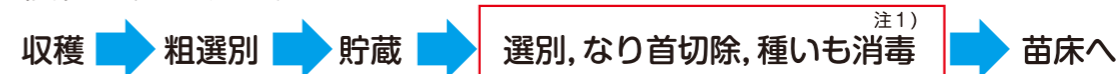
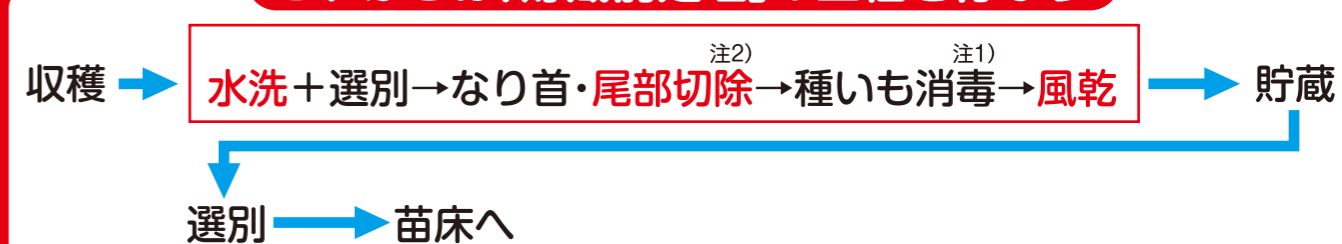


図4：保管のための切除部位

● 慣行の処理方法



これからは「貯蔵前処理」の工程を行なう



注1) 黒斑病対策としてトップジンM水和剤200倍液に30分間浸漬(塊根切除後、速やかに実施)し、濡れた塊根による貯蔵中の腐敗を避けるため、貯蔵前に十分風乾させる。

注2) 尾部の切除は、乾腐病等による貯蔵腐敗を予防するために実施する。

※ 本パンフは、農研機構生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業(01020C)」の成果を一部活用しました。